

# うるま市兼箇段「兼箇段土地改良区」

生産  
部門

## 光が奏でるふるさとづくり (平成19年度認定)



平成17年4月1日に旧具志川市、石川市、勝連町、与那城町が合併し、うるま市が誕生した。平成18年1月24日には小ギクの拠点産地に認定されるなど、小ギク栽培の盛んな地域であり、旧具志川市の西部に位置する兼箇段地域は、その中でも小ギク栽培の盛んな地域である。

昭和48年に設立された兼箇段土地改良区は、昭和47～50年度に受益面積26haのかんがい施設整備、平成12～17年度には32.4haのかんがい施設の再整備が行われ、25名の組合員が豊富な水を使って小ギクの生産を行っており、平成18年度の出荷量は15,562千本、生産額は520百万円となっている。

土地改良区の円滑な運営に向けた理事会や、かんがい施設の利用に関する勉強会などの定例会の開催、かんがい施設の共同管理作業の実施など、組合員一体となって小ギク栽培に励んでいる。

また、10月から2月にかけては電照栽培の光があたりを包み込み、兼箇段地域の風物詩として定着している。

